

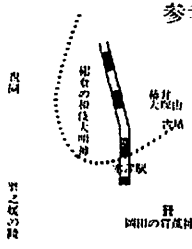


我々同族の一行26名は先祖のルーツに夢を抱いて8月14日午前8時チャーターした小型の観光バスで上賀茂神社前を、出発し、一路葛城山麓へむかった。あいにく台風の日であったが、皆さんの精進のおかげか雨にも会わず山麓の素晴らしい景色を眺めながら下記の各神社を参拝することができた。あらためてご先祖の偉大な足蹟を観、また現地の各神社の宮司からお話を聴くことができた。

岡田の鴨神社

強い陽射しのなか、山の裾野に鎮座されていた。合同参拝。

「以前はもっと木津川の近くの地に祀られていた。」との神社の説明があった。



参考：この地域一帯は2〜3c頃ヤマトを追われた葛城系王族が葛城賀茂の信仰をになつて南山城のこの地を仮の安住の地とした。近くにある椿井大塚山古墳からは32面もの魏の製品とされる鏡の出土品等があり学術的にも重要な所である。

日本書紀の崇神天皇の条には「反乱がありこの河に追撃された兵の半数が倒れ溢れていた」とある。また棚倉の和伎大明神縁起にも「合戦があり両陣木津川をはさんであい挑んで戦った」とある。また中国の魏志倭人伝には「ヒミコのと國中服せず」とか「当時千余人を殺す」とある。古事記の垂仁天皇とサホヒメ、サホヒコの挿話もこの地に起こったことであろう。時代は下つて仁徳天皇の皇后磐之媛の陵もあり葛城鴨族が活躍したところである。

高天彦神社

緑の豊かな台地高天原には神体山といわれる小高い丘の麓に高天彦神社は鎮座されていた。ご祭神は、高御産巢日神（別名高皇産靈神、高木神）である。参道の両側には樹齢千年をおもわせる杉が立ちならび、神社の前には清冽な小川があり、ことのほか気高く、日本人の心の故郷を感じさせられる神社だった。静寂のなか全員による合同拜礼のあと、高天原の台地を一同で散策し、神々に思いを馳せた。

参考：775年 大和国で神封四戸 光仁天皇の宝龜十年（新抄格勅符抄）
806年 正四位上高天彦神 平城天皇の大同元年（日本後紀）
838年 従三位高天彦、名神となす。仁明天皇の承和六年（続日本紀）
859年 従二位に叙せらる。 清和天皇の貞観元年（三代実録）

明治時代以後は、村社となる。☆なぜ社格が下がったのかが疑問に思える

高鴨神社

昨年に続き2回目の訪問となる。合同参拝では、国の重要文化財になっている本殿前の拝殿に全員昇殿させていただき、ご祈祷、お祓いを賜った。また玉串奉奠を行い祖先の祀った神により一步近ずき得た感じがした。

・鈴鹿宮司の講話によると、ご祭神は「アジスキタカヒコネの神」であり、この神はカモ族が農耕の繁栄無事安全を祈願した神であるとのこと。

アジスキタカヒコネはスキを田の真ん中に置き雷を呼んだ。これによって農作物がよくできるようになった（現代農耕技術的にも可とされる）という伝説がある。

ご祭神の昇格の推移も注意をひくところである。

参考：三代実録によると清和天皇の貞観元年
アジスキタカヒコネの神は従二位勲八等から従一位へ（一階級の昇格）となる。また同時に高鴨の神は正三位から従一位へ（二階級の特別昇格）とあるがこの高鴨の神がご祭神にはない。等を検討する必要もでてくるように考えられる。

・ここは陰陽道の宗家といわれるだけあり、落ち着いた古社であり大木に囲まれた森には“気”が充満しているところとして、多くの陰陽者や参拝者の訪問がある。

風の森神社

古事記に出てくる風の神の杜であると言われている。



風の神の名は志都都比古の神（古事記）は、峠に座して、風がよく通るところである。風の森の峠に登ると一面の稲のジュウタンは、大きく波打って遠く吉野までつづく。和歌山の連峰の眺望はこの上なく神々しい。古代の人々が崇めた風の神は、今もまだ忙しいのだろうか。我々は風に洗われて身の引き締まる思いである。

葛城山巡りのバスの中における皆様の主なご意見ご要望は次のようでした。

- ・休みの日にしてほしい。
- ・若い人の参加しやすいイベントにしてほしい。
- ・バスで行くのはよい。
- ・行き先については賀茂族のルーツに関する神社への参拝の希望が多かった。

(八咫鳥神社、籠神社、角宮神社、イカコヤ姫系の神社)

- ・同族会と崇敬会の関係。
- ・同族会会員情報の伝達。
- ・伝統を残すためのマニュアルがほしい。

文化欄

いまはあまり見かけられなくなって来ましたが 賀茂には特色のある日常の生活様式、習慣があり、さらにはいくつかの誇りうる伝統文化があるとされています。これらがこのまま時の流れとともに消えていってしまうのは、非常に惜しい悲しいことと思っておられる方も多いと思います。

これらの中でとくに遺しておくべきものを調査し検討を加え再び陽を当てるような活動があった方がよいというご意見もあります。従って皆様のご意見を頂きながら進めていってはどうかと思えます。

因に賀茂の伝統文化に類すると考えられるものを次にも列挙します。(他にも多くあると思えますが)

- (1) 社家の伝統的年中行事
- (2) 社家の家庭料理 (材料, 料理の仕方, 味付け…)
- (3) 人形: 木目込人形 (堀川家)
- (4) 馬術
- (5) 陰陽道
- (6) 書道: 賀茂流 書博士 (岡本家) 御所の「紫宸殿」
- (7) 蹴鞠
- (8) 鍼術: 鍼博士

等々です。ご同好の方々をお待ちしています。

おことわり

一言主神社など残りの神社の報告は、次号に掲載させていただきます。

クイズ

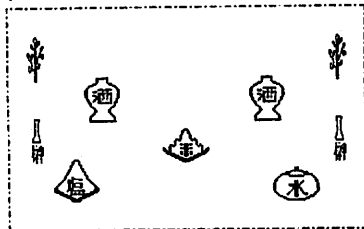
ラグビーの日本代表のマークは「さくら」です。ではサッカーの日本代表のマークは?

編集後記

バスツアーの中のご意見からやはり同族内には情報の疎通が必要と強く感じられました。

今回この趣旨に従ってツアーの状況をまとめ同族の方々にお知らせすることからはじめてはどうかと思いいち号を出すことにいたしました。今後この記事の中にもありますように、有志の活動状況や同族会の情報もでき得るかぎりご連絡いただき有意義な季報に作って行きたいと思えます。何とぞよろしくお願ひ申し上げます

幹事一同



神事コーナー

古来から伝わる社家の神事について調べて行きたいと思っています。初回と言う事で正月のしめ飾りについて調べてみました。

- ① しめ縄は根っこの方が左にきます
- ② しめ縄の中に柵をいれます
- ③ 間にシデを付けます



すぐきの起源

上賀茂神社の社家が鳥狷に出た際、賀茂川原で珍しい植物を見つけて持ち帰り、邸内で栽培したのが始まりと伝えられています(またこの他に上賀茂の社家に御所からすぐきの種が下賜されたのが始まりとの説もある)江戸時代初期には、社家の裏庭で育てられたすぐきで作る漬物は、上賀茂の名産品として知られていました。

もともと、社家から宮中、公家や文人に贈られた贈答品であったようです

次号への原稿をお寄せください。

(ご意見、俳句、和歌など)

連絡先

603

京都市北区上賀茂山本町45
北大路 元 顕

651-11

神戸市南五葉5丁目4-34

西池 成 晃